

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立肥前中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>各評価項目については、概ね達成できた。</li> <li>「開かれた学校づくり」と「小中連携」については、十分達成できた。この成果を学力向上にもつなげていきたい。</li> <li>令和3年度はGIGAスクールの一入1台端末に関して佐賀県教育委員会の研究指定校となる。効果的な活用法を効果的な活用法を研究し、実践していきたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	いつも 誰もが 来てよかった 肥前中
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>肥中生の「学ぶ力」を育成する学習指導法を工夫し、一人一台端末の利活用に積極的に取り組みながら、アウトプット活動を充実させる。</li> <li>コロナ禍における保護者との連携の工夫し、充実させる。</li> <li>肥前中校区の小中連携を推進する。</li> </ol>

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学習アンケートで、「一人一台端末を利用し、自分の考えを話したり、書いたりしている」と答えた生徒の割合を9割以上に、「家庭学習を1時間以上行う」と回答した生徒の割合を10ポイント以上向上させる。	●各教科で一人一台端末の活用を意識した、アウトプット活動主体の授業実践を行う。 ●各教科でアウトプットを意識した家庭学習の指導を行う。	A	●1人1台端末の活用については、「授業に積極的に活用している」と回答した生徒が9割を超えていた。 ●家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答した生徒の割合が7月より10ポイント上昇した。また2時間以上の家庭学習を行っている生徒の割合も17ポイント上昇した。	B	●地域のインターネット等の接続状況や家庭の環境もあるだろうが、子どもたちが活用を広げて行ってほしい。 ●子どもたちは、目標をもってしっかり学習に取り組んでほしい。	研究主任 ICT教育担当
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○校区の小学校と連携して、生活・学習環境づくりを進めている」と回答した生徒の割合を、9割以上にする。	●小中連携を深め、「唐津市学力向上アクションプラン」に沿った授業実践を行う。一人1回以上の研究授業を行う。	B	●コロナ禍でもあり、生徒に見える形での小中連携の取り組みの充実が難しかった。 ●肥前中校区教育研究会の「学び部会」「心部会」で校区内で情報共有を密にし、共通認識を持って生徒の教育に当たることができた。	B	●小学校からの国語と算数の学力が厳しいと聞いている。中学校の学習についていけないのではないかと心配している。小学校との連携をしっかりとってほしい。	研究主任 教育相談担当 生徒指導主事
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケートで、「人の嫌がること言ったり、したりしない」や「いのちの教育についての取組は役に立っている」「積極的にボランティアに取り組んでいる」と回答した生徒を9割以上にする。	●道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施。 ●開発的生徒指導を取り入れ、生徒に活躍の場を与え、自己肯定感を育てる。 ●ボランティア活動に積極的に取り組むように呼びかけ、その行動を全校や家庭、地域に情報発信する。	A	●「積極的にボランティア活動に取り組んでいる」と回答した生徒の割合は95%を超えている。また、「人の役に立つ人間になりたい」と回答した生徒も90%を超えている。 ●さらに、さらに活躍の機会を設定し、生徒の自己肯定感を育てたい。	B	●素直な生徒が多い。 ●子どもたちの良さとして頑張ってもらいたい。	生徒会担当 道徳教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止について組織的対応ができている」と回答した教員を9割以上にする。	●生活アンケートを定期的実施する。 ●生徒理解協議会を充実させる。 ●いじめに関する研修会を開催する。	B	●本年度のいじめの認知件数は12件であった。職員研修「いじめの定義」の確認を行い、学校全体で組織的に対応できるように研修を深めた。 ●毎月月初めに生活アンケートを実施し、生徒理解に努めることができた。	B	●いじめや不登校などに対する取り組みにも、地域の力を貸すので遠慮なくしてほしい。	生徒指導主事 教育相談担当 各学年主任
●健康・体づくり	◎生徒が夢や目標を持ち、学びを人生や社会に生かそうとする人間性の涵養	○学校アンケートで、「自分の進路について考えたり、目標を持ったりできている」と回答した生徒を8割以上にする。	●各学年、計画的にキャリア教育に取り組む。3年間を見通した取組を行う。 ●立腰帯りの会放送で、生徒が将来の夢等についてスピーチする。	B	●全生徒が「立腰放送」で自分の考えを全校に向けて発信することができた。 ●コロナ禍でもあり、職場体験や職業講話、卒業生との交流など縮小して行った。	B	●地域の産業について、学ぶ機会があればありがたい。地域の者が子どもたちに後姿をしっかり見せていきたい。	各学年主任 特別活動担当
	●「望ましい生活習慣の形成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒80%以上にする。 ●「起床時間と睡眠時間を設定している」と回答した生徒80%以上にする。 ●「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上にする。	●生活習慣アンケートの実施する。(運動・生活リズム・食事・安全について) ●毎日の健康観察を行い、自分の健康状態に関心を持つようにする。 ●感染症予防を徹底する。 ●生徒会の給食実践部の取組として、給食に使用されている食材について、情報を発信する。	A	●「健康に朝食は必要である」と回答し、他生徒は89%であった。 ●栄養教諭による食育の授業を行い、朝食の大切さや免疫力を高める生活習慣について考えることができた。 ●生徒会給食実践部の取組として、給食に使われている食材についての放送を行ったり、感染症予防のための消毒を行った。	B	●朝食の喫食率は、親と子で少し意識の差があるようだ。	養護教諭 栄養教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●安全に関する資質・能力の育成	●生徒の交通事故や生活事故を0(ゼロ)にする。	●交通安全教室を実施する。 ●自転車点検の実施する。 ●原子力防災訓練、火災避難訓練、不審者対応訓練等を行う。 ●アレルギー対応の研修を行う。	B	●原子力防災訓練の一環として、保護者引き渡し訓練を行ったが、より、スムーズに行えるように改善の必要があった。 ●校区内での自転車の乗り方の指導を行う必要がある。	B	●自転車通学をする生徒が多くなっているようだが、車を運転していて危険を感じることがある。指導をお願いしたい。	生徒指導主事
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●毎週水曜日に定時退勤日を設定する。 ●業務記録票により毎月の時間外勤務の状況を可視化し、各自改善を図る。 ●文書のペーパーレス化を図る。	B	●職員会議資料などのペーパーレス化が進んだ。 ●業務記録票により、毎月の時間外勤務の状況を可視化が実施できた。	B	●先生方の健康に留意してほしい。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり	○ICTを活用した情報発信	○「学校は情報発信に努めている」と答える保護者の割合を9割以上にする。	●はなまる連絡帳の更新頻度を高め、学校行事や生徒の様子を積極的に発信する。 ●地域の団体等と協働した教育活動を実施する。	B	●はなまる連絡帳を利用して、生徒のようすや学校行事等について積極的に配信した。 ●「学校は情報発信に努めている」と回答した保護者は、92%であった。	B	●下校時間を連絡してほしい。また、変更があったときにははなまる連絡帳を通して連絡が欲しい。	管理職
○小中連携	○小中連携による共通理解と共通実践	○学校アンケートで、「校区の小学校と連携して、生活・学習環境づくりを進めている」と回答した保護者を8割以上にする。	●肥前中校区教育研究会を充実させ、小中連携した取組を行う。 ●小中連携の取組を積極的に保護者に発信する。	B	●校区の小学校と連携して、生活・学習環境づくりを進めている」と回答した保護者は、70%であった。 ●小中連携の取り組みを積極的に生徒や保護者に発信する必要がある。	B	●学校が何をやっているかわからないという回答があった。コロナ禍で保護者や地域の方が学校に来る機会が減ったためもあるだろう。情報発信の工夫が必要であろう。	研究主任 生徒指導主事

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>各評価項目については、概ね達成できた。改善すべきところやさらに推進すべきところがあるので、見直しをもって取り組んでいきたい。</li> <li>令和4年度は「1人1台端末を活用した授業実践研究」の2年目となる。より充実した研究となり、生徒に還元できるように努めていきたい。</li> </ul>
--------------------	--

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育